

ブラシレスモータ EM-3080J / EM-3080J-2M

取扱説明書

OM-K0585

このたびは、ブラシレスモータ「EM - 3080J / 3080J - 2M」をお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。本製品をご使用頂くためには、スピンドル、E3000コントローラなどが必要です。ご使用前に本取扱説明書および上記製品の取扱説明書をよくお読み頂き、末永くご愛用くだされば幸いです。また、本取扱説明書は、ご使用になられる方がいつでも見ることができる場所に保管してください。

1 安全上の注意事項・表示について

- 使用する前に必ずこの安全上の注意をよくお読み頂き、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全にお使い頂き、あなたや他の人への危害や損害を未然に防止するものです。危害や損害の大きさと切迫の程度に分類しています。いずれも安全に関する内容ですから、必ずお守りください。

注意区分	危害や損害の大きさと切迫の程度
▲ 警告	「人が傷害を負ったり、物的損害の発生がある注意事項」を説明しています。
▲ 注意	「軽傷または中程度の傷害、または、物的損害が発生する可能性がある注意事項」を説明しています。

▲ 警告

- ① 十分な知識と経験を持った人が取扱ってください。
- ② ブラシレスモータはハンドツールではありません。お手持ちの工作機械及び専用機械に取り付けてご使用ください。
- ③ 回転体には手を触れないでください。高速回転のため危険です。
- ④ モータ回転中は安全のため保護覆いや防塵メガネ、防塵マスクを使用してください。
- ⑤ モータスピンドルを取り付ける際のホルダは、機械のアースに接続されていることを確認してください。接続されていないと感電の恐れがあります。
- ⑥ 濡れた手でコード部分には触れないでください。感電の恐れがあります。
- ⑦ 安全を確認するまでは、本製品の取扱・取外しを絶対におこなわないでください。
 - ・本製品の取扱いは、各種の損害を防止するための十分な安全対策がなされていることを確認してからおこなってください。
 - ・本製品を取り外すときは、上述の安全対策がとられていることの確認をおこない、エネルギー源である電源や供給空気を遮断し、該当する設備システム内の圧縮空気を排気してからおこなってください。

▲ 注意

- ① 本体を落下させたり、ぶつけたりしないでください。回転不良や発熱、サヤの変形等故障の原因となります。
- ② 長期間の使用していない状態で再び本製品をご使用する際は、低速から徐々に回転を上げ約15～20分で最高回転になるような慣らし運転をおこない、異常発熱・異常音について確認してからご使用ください。
- ③ スピンドルや減速器の許容回転速度以下で本製品をご使用ください。
- ④ 本体を分解、改造しないでください。本体を分解、改造した場合には、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- ⑤ 作業中に回転ムラや異常な振動が発生した場合は、直ちに作業を中止してください。

2 特 長

- ① 外装はステンレスで高硬度焼入れ処理をおこなった外径 $\phi 30\text{mm}$ の小型モータです。
- ② 高速ブラシレスモータの採用により、面倒なブラシの交換は不要です。
- ③ 少量(約30ℓ/分)のエアで賄う空冷方式を採用。モータの発熱を防ぎ、長時間の使用が可能です。
- ④ モータの脱着に便利な中間コネクタ付コードを装着。

3 仕様及び寸法

3-1 仕様

型 式	EM-3080J	EM-3080J-2M
中間コネクタ付コード	0.3m	2.0m
最高回転速度	80,000min ⁻¹	
最大出力	350W	
質 量(モータコード含む)	360g	530g
騒 音	70dB (A) 以下	

〈オプション〉

モータコード ※注	コード長さ: 3.0m、3.7m、5.7m、7.7m (エアースト付)
--------------	--

※注: モータコード

モータコード(3.0m、3.7m、5.7m、7.7m)は付属していません。(オプション)

ご使用サイズを選定の上ご注文してください。

但し、モーターコード全長が8mを越えない範囲で選定してください。

標準付属品

● スパナ (22×27)

● 取扱説明書

3-2 寸法図

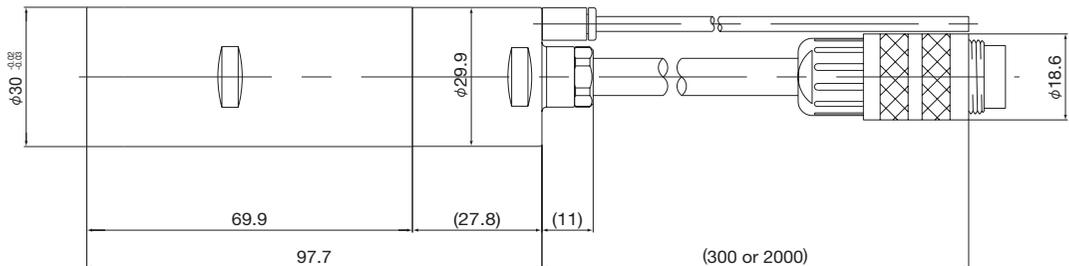


図-1

4 トルク-出力特性グラフ

EM-3080J / EM-3080J-2M

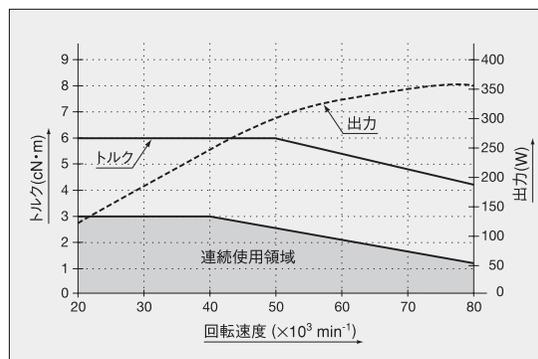


図-2

5 モータコード(オプション)の接続方法

- ① モータコードのねじ込みキャップを取り外してください。

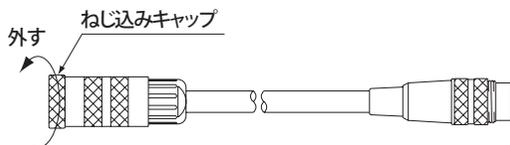


図-3

- ② 本体側の凸部にモータコード側の凹部を合わせて挿入してください。



図-4

図-5

- ③ モータコード側を締め込み固定してください。

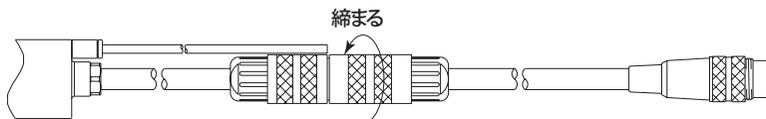


図-6

- ④ エアーホースのジョイント先端(斜線部)を押しながら栓を外してください。



図-7

- ⑤ 上記ジョイントにエアーホースを挿入してください。

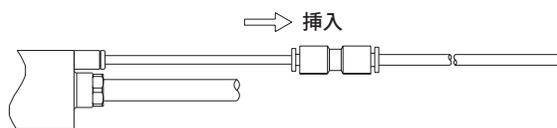


図-8

警告

- ① ユニットにモータコード(オプション)が接続され、ユニットの電源がONの状態では本製品とモータコードの抜き差しを行わないでください。感電の恐れがあります。
- ② モータコード(オプション)の接続は確実に行ってください。漏電等が発生する原因になります。
- ③ エアーホースは必ずコントロールユニット、又はセレクトユニットを介して本製品に接続してください。ユニットを介さない場合、保護機能が働かず危険です。
- ④ エアーホースの接続は確実に行ってください。使用中ホースが外れますと、ホースが暴れ大変危険です。
- ⑤ モータコード(オプション)、エアーホースの本製品への無理な取付け・取外しは行わないでください。キズや劣化により、エアークレームやホースの外れ、漏電等が発生する原因になります。

注意

プラグの分離または分離後の保管の際には、プラグやジョイントに油や汚れが付着しないようにカバーや付属のキャップ等で保護してください。

6 スピンドルとの接続方法

モータ前部のねじにスピンドル後部のねじを合わせて、時計方向に回します。このとき回転伝達用クラッチが噛み合わない場合には、モータとの接続ねじが締まりません。その場合には無理に締め込まず、戻しながらバーを指で回し、クラッチを噛み合わせてからねじ込み、最後に付属のスパナをモータのスパナ掛（前側のスパナ掛け）に掛け、締め込んでください。

注意

モータにスピンドルを取り付ける場合は、接続内部にゴミが入らないように注意し、清掃してから取り付けてください。また、汚れた手での取り付けは、ゴミが入りやすいのできれいな手で取り付けてください。

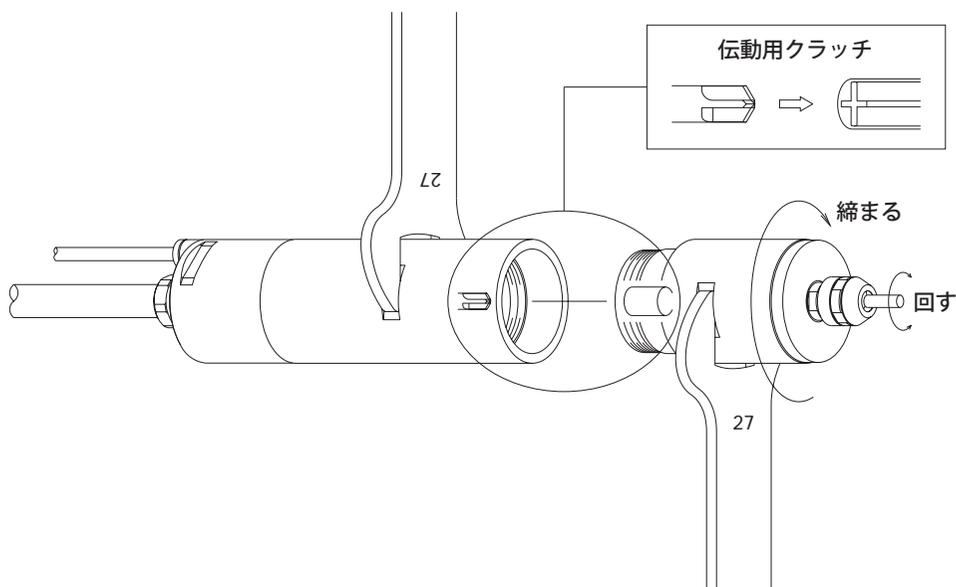


図-9

7 故障の原因と対策

症状	原因	対策
回転中に異常振動、騒音が発生する。	ボールベアリング内に異物の侵入。 ボールベアリングの磨耗。	弊社迄お送りください。